

地球生きものプロジェクト
【報告シート】

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※現在進行形のプロジェクト

概要	名称	国際生物多様性年映像化プロジェクト
	実施主体	堂本暁子委員、生物多様性JAPAN(代表:岩槻邦男委員)、 (株)BS-TBS、(株)TBSビジョン、Green TV Japan. LLC、環境省
	実施日時	平成22年5月22日(BS-TBSにて放送済み)
	実施場所	OP10会場 環境省、生物多様性JAPAN、IUCNの展示ブース。 英語版はCOP10 期間中 成田空港ロビー、関西空港ロビー並びに、 環境省主催のCOP10期間中のイベント会場。DVD希望者は環境NPO、 企業、大学等多岐にわたり、全国各地で開催されたそれぞれの団体がCOP10に向けて開催したイベント会場や教育の場で上映された。
	参加人数	不特定多数
背景及び目的 (実施内容)	<p>生物多様性の普及啓発の促進、国際生物多様性年とCOP10の普及啓発のため、生物多様性とその重要性を分かりやすく伝える内容の映像を制作し、生物多様性の日(5月22日)に合わせて放送するとともに、DVD化して全国の小中学校等に配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TBS及びGreenTV保有の既存映像を中心に映像を作成し、平成22年5月22日(国際生物多様性の日)に、BS-TBSにて1時間枠で放送。 ・教育用映像教材及びCOP10普及啓発用として、上記映像を再編集作業中。 ・今後はDVD化し、学校配付や普及イベントでの上映を行うほか、デジタルコンテンツ化してインターネットで配信する予定。 	
中間報告	<p>5月22日「生物多様性の日」にBS-TBSで放送した素材を各種DVDに再編集し、COP10まで、フルに活用した。放送分の1時間もの他、25分の日本語短縮版、COP10会場、空港ロビー用15分の英語版、小中学校配布用と4種類を作成し、目的・参加者・使用時期等に合わせて配布し、使用した。</p> <p>特に学校に配布したDVDは学習教材として活用できるよう、テーマ別に6つのチャプターに分け、教師が自由に使用できるように配慮した。また、3年後にも使用できるようにCOP10情報は削除した。現在、環境省が全国の小中学校に配布中。</p>	
プロジェクトの様子(写真等)		
その他		

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	文化と生物多様性（日本語、英語冊子）
	実施主体	堂本暎子委員、生物多様性JAPAN(代表:岩槻邦男委員)
	実施日時	2010年10月11日－29日
	実施場所	MOP5／COP10会場で配布
	参加人数	
背景及び目的 (実施内容)	<p>生物多様性条約の序文にも「生物の多様性の保全及び持続可能な利用において女性が不可欠の役割を果たすことを認識し……」と明記されている、女性と生物多様性をめぐる問題が日本国内で一般には十分に話題になっていないことから、その趣旨をひろめるために、啓蒙活動を行うことを目的とする。女性と生物多様性の問題は文化とも深く関わることから、題名を「文化と生物多様性」とする。COP10でもさまざまな検討・討議されるだろうこの問題について、日本でいち早く取り組んできた堂本暎子氏が、わかりやすく解説する。</p> <p>啓蒙用冊子作成 A5版 オールカラー 16p 日本語版1500部、英語版500部 作成：生物多様性JAPAN 印刷：Bio City 配布先：MOP5／COP10参加者</p>	
結果	<p>英語版が海外からのCOP10参加者に好評であった。「日本の自然と文化」(岩槻邦夫:堂本暎子対談)では日本人が古来から身近な自然を生活に取り入れてきた歴史を振り返り、「人と自然の共生」の思想・文化を地球規模で生物多様性を保全するにあたって世界の人々と共有することの重要性を強調した。まず、「人と自然の共生」の真意を伝える工夫として英訳をharmonious coexistence between humans and natureとした。「SATOYAMA イニシアティブ」についての解説である。イルカ委員の「まあいいのち」を収録、さらに、もう一つ、日本も「ジェンダーの主流化」に参画するとのメッセージである。</p>	
プロジェクトの様子(写真等)		
その他		

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	2010年国際生物多様性年 イルカプロデュースCOP10「まあるい地球コンサート」
	実施主体	国際自然保護連合、IUCN-J、中日新聞、東海テレビ放送、サンデーフォークプロモーション 協賛:住友生命保険相互会社 後援:環境省・中経連 連携協力:COP10支援実行委員会
	実施日時	2010年10月24日(日)
	実施場所	名古屋市公会堂
	参加人数	2000人
背景及び目的 (実施内容)	<p>名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開かれる今年、IUCN親善大使として、地球いきもの応援団の一員として、「生物多様性」について一人でも多くの方々に歌を通じて普及すること。尚、会場内に募金箱を設置し、その募金をIUCNを通じて「生物多様性」の普及啓発に努める。</p> <p>2010年10月24日(日)17:00より、名古屋市公会堂にてコンサートを開催する。 出演者:イルカ、南こうせつ、伊勢正三、神部冬馬 *チケットは即日完売</p>	
結果	<p>10月24日(日)名古屋市公会堂でイルカプロデュースCOP10「まあるい地球コンサート」が開催されました。出演者イルカ/ゲスト南こうせつ、伊勢正三、神部冬馬 チケットは即日完売となり大勢の来場者で賑い大盛況で終了しました。</p>	
プロジェクトの様子(写真等)		
その他		

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	「国際生物多様性年オープニング記念行事」
	実施主体	生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会
	実施日時	平成22年1月16日(土) 13:00~16:30
	実施場所	名鉄ホール(名古屋市中村区)
	参加人数	約900名

背景及び目的 (実施内容)	COP10の開催年であり、また、国連の定めた国際生物多様性年である2010年の幕開けを記念した事業を開催するもの。
------------------	---

結果	<p>最初に国際生物多様性年オープニング記念「絵画・写真コンテスト」の表彰式を行いました。</p> <p>続いて、C.W.ニコル氏(作家、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長)に「自然との共生」と題し講演いただきました。もっと日本の自然の素晴らしさを自慢しよう、との呼びかけがありました。</p> <p>最後に「暮らしと生物多様性」をテーマにトークセッションを行いました。生物多様性が日常生活に深く関わっていることに気づき、理解するよい機会となりました。</p>
----	---

プロジェクトの様子(写真等)



絵画・写真コンテスト表彰式の様子



基調講演の様子



トークセッションの様子

その他

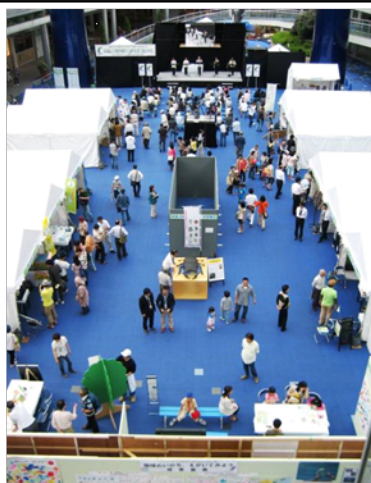
【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	「2010年国際生物多様性の日・COP10開催半年前記念行事」
	実施主体	生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会
	実施日時	記念フェスティバル:平成22年5月22日(土)～23日(日) 10:00～17:00 記念シンポジウム:平成22年5月22日(土) 13:00～17:00
	実施場所	記念フェスティバル:オアシス21「銀河の広場」 記念シンポジウム:愛知芸術文化センター アートスペースA
	参加人数	記念シンポジウム:200名
背景及び目的 (実施内容)	「国際生物多様性の日」及び生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催半年前を記念した事業を開催し、生物多様性やCOP10について県民・市民への周知を図るとともに、COP10の開催機運を盛り上げる。	
結果	「記念フェスティバル」では、トークセッション、ミニコンサート、園児から中学生までの子どもたちの取組発表の他、21のNGO・企業・行政機関等によるブース出展が行われました。一方、「記念シンポジウム」では、分子生物学者で青山学院大学教授の福岡伸一氏に「生命を捉えなおす」と題し講演いただきました。その後のパネルディスカッションでは、生物多様性のために私たちが日常生活の中でできることについて話し合われました。	

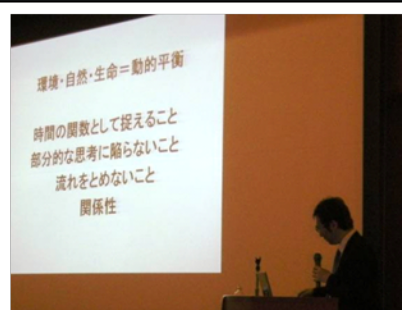
プロジェクトの様子(写真等)



「記念フェスティバル」ブースの様子



「記念フェスティバル」会場全体の様子



「記念シンポジウム」記念講演の様子

その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	COP10あいち・なごや「絵画・写真コンテスト」
	実施主体	主催: 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会 共催: 読売新聞社 後援: 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会
	実施日時	募集期間: 平成22年6月29日(火)～9月8日(水) / 表彰式: 平成22年10月9日(土)
	実施場所	なし
	参加人数	計1,668点(絵画975点、写真693点)
背景及び目的 (実施内容)	絵画写生や写真撮影を通じて、より多くの人々が身近な自然や生き物の素晴らしさに気づききっかけとするとともに、生物多様性やCOP10についての認識を高めていただくため開催するもの	
結果	ご応募いただいた1,668点から入賞作品(絵画21点、写真22点)を選出し、10月9日(土)に表彰式を開催しました。 入賞作品は、COP10期間中に会議の開催地である名古屋国際会議場に隣接する白鳥地区での「生物多様性交流フェア」や愛・地球博記念公園での「地球いきものEXPO」、栄地区の「COP10情報発信ステーション」で展示しました。	

プロジェクトの様子(写真等)

<絵画部門>



グランプリ

「かっこいいかじかがある」

相良 岳

(北名古屋市・小学2年生)

<写真部門>



グランプリ

「蜻蛉と遊ぶトキ」

羽田 正昭

(新潟県・65歳)

その他

概要	名称	「COP10/MOP5カウントダウン100」
	実施主体	生物多様性条約市民ネットワーク
	実施日時	7月
	実施場所	東京、愛知、兵庫、沖縄、
	参加人数	全会場の延べ参加者数1000名
背景及び目的 (実施内容)	COP10/MOP5の、開催100日前を節目として、市民による市民のためのフォーラムを開催。このフォーラムは、10月のCOP10/MOP5が、市民の声を届けるべき会議であることを周知してもらうことが目的。そのため、CBD市民ネットから産・官・学・民のさまざまな立場の方々に呼びかけ、各主体間の垣根を越え、講演や共同報告を行い、フォーラム全体で「生物多様性条約」が一日でつかめる構成となっている。	
結果	国連大学では2つの会議場で延べ400名の動員、名古屋国際会議場では200名の動員、王滝村シンポジウムや各地のイベントも盛況に実施。COP10に向けた市民セクターへの情報発信を行った。	

プロジェクトの様子(写真等)



カウントダウン100フォーラム東京会場
Countdown 100 Forum Conference Hall in Tokyo.



カウントダウン100フォーラム東京会場
Countdown 100 Forum Conference Hall in Tokyo.



カウントダウン100フォーラム東京会場
Countdown 100 Forum Conference Hall in Tokyo.



沖縄写真展会場
Photo Exhibition in Okinawa Prefecture

ものすごく重要な国際会議まで
あと100日。
HOST国は、日本だ。

10/11への準備が急務

地球と私たちの未来が決まる。

10/11、10/12、10/13、10/14、10/15、10/16、10/17、10/18、10/19、10/20、10/21、10/22、10/23、10/24、10/25、10/26、10/27、10/28、10/29、10/30、10/31

生物多様性条約とは、地球上のあらゆる生物と生態系を保護し、持続可能な開発を実現するための国際的な約束です。2010年の目標として、生物多様性の喪失を減らし、生態系の回復を促すことが求められています。

生物多様性条約とは、地球上のあらゆる生物と生態系を保護し、持続可能な開発を実現するための国際的な約束です。2010年の目標として、生物多様性の喪失を減らし、生態系の回復を促すことが求められています。

www.cbd.int



王滝村シンポジウム
Symposium in Outaki Village, Nagano Prefecture

その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	「地球のことはみんなで語り合おう」
	実施主体	生物多様性条約市民ネットワーク
	実施日時	通年
	実施場所	Yahoo! グリーンプロジェクト、環境goo、生物多様性じぶん条約、i-dialog
	参加人数	
背景及び目的 (実施内容)	言葉では理解が難しいが、実は生活と直結する生物多様性を、インターネット上に誰もが参加して理解を深められる対話システムを構築し普及啓発を推進していく。	
結果	Yahoo!グリーンプロジェクト内の生物多様性特集を協働し、国内の主要NGOからのコンテンツ供給を行い、「国連生物多様性の10年NGOイニシアティブ」の呼びかけや、「生物多様性じぶん条約」との連携を図った。環境gooではIUCN-Jと連携している「おりがみプロジェクト」や「地球の未来を考えよう」での協働を行った。自主運営した[i-dialog]では市民参加のコミュニティ運営を行い、その中からCOP10での「開催地住民からのメッセージ」を発信する成果に至った。今後もCOP11に向けて市民アクションの源泉となるような活動を続けていく。	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	生物多様性条約グローバル対話フォーラム
	実施主体	生物多様性条約市民ネットワーク(CBD市民ネット)
	実施日時	10月19日～28日
	実施場所	名古屋学院大学体育館大会場
	参加人数	期間中の延べ参加人数1500名
背景及び目的 (実施内容)	<p>生物多様性条約市民ネットワーク(CBD市民ネット)は、COP10が市民の声が届く市民の条約であることを実現するために、テーマ別にポジションペーパーを作成し条約や政府に対して提言活動を行っている。その内容や、交渉の途中経過、成果などを共有する場として、このフォーラムを企画した。</p> <p>名古屋学院大学体育館大会場でCOP10開催中に行う様々なテーマによる10回連続フォーラム。2時間のフォーラムの枠組みの中で、各分野の専門家を招いて様々なセクターの方々と共有し、より意欲的な決議に向けて盛り上げていくイベント。</p>	
結果	<p>名古屋学院大学体育館大会場でCOP10開催中に行う様々なテーマによる10回連続フォーラム。2時間のフォーラムの枠組みの中で、各分野の専門家を招いて様々なセクターの方々と共有し、より意欲的な決議に向けて盛り上げていくイベント。国連生物多様性の10年、先住民族、ジェンダー、開発、種子、海洋沿岸、湿地、ホットスポット、CEPA、など多彩なテーマを連続フォーラムとして実施した。</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※現在進行形のプロジェクト

概要	名称	想いでつなごう！COP10おりがみプロジェクト
	実施主体	国際自然保護連合日本委員会
	実施日時	5月SBSTTA/WGR期間中、その他
	実施場所	ケニア・ナイロビ、名古屋、東京など
	参加人数	
背景及び目的 (実施内容)	生物多様性条約締約国会議(CBD-COP10/MOP5)が日本で開催されるこの貴重な機会に、COP10のロゴのおりがみをコミュニケーションツールとして用い、さまざまなセクターでの生物多様性及びCBD-COP10の認知拡大と国際会議への多様な参加の機会の提供を目的とする。	
中間報告	<p>【COP10以前～】サポーター養成ワークショップを東京、名古屋、関西で計4回実施し、各地で実施するプロジェクトサポーターとして100名を確保。COP10を1つの核として大きなムーブメントに成長し、12月末までに、92のパートナー団体、23971個ものおりがみと、延べ22001人名の参加と、想像していた以上の成果を上げた。</p> <p>【COP10期間中10/11～29】COP10における最大の成果は、さまざまな団体や人々と「おりがみ」を通じて1つに繋がったことである。特にCOP10支援実行委員会からは、多大な協力を頂き、期間中にイベント参加の著名人や一般から5000個ものおりがみメッセージを集めて頂いた。さらにIUCN展示ブースにて5760個、計1万760個のおりがみメッセージが集まった。CEPAフェア展示および発表、イルカさんを交えてのステージ発表等も実施。また会議場内でも展開し、会議参加者からの貴重なメッセージを集めると同時に、一般の方のメッセージも含めてスライドショーにまとめたところ、CBD事務局の計らいにより会議場内のスクリーンに上映された。一方で、会議場内からのメッセージを一般の方に見せるという相互に伝達しあうことができる貴重な場を形成することもできた。【COP10後】集まったおりがみメッセージの一部を東山動植物園お花畑にタイムカプセルに入れて埋蔵した。タイムカプセル埋蔵式には、近藤環境副大臣や関係各所にもご参列頂き、集まった子供たちと共に想いを詰め込んだ。国際生物多様性年クロージング・イベントでは、石川県庁より、クリスマスツリーのおりがみオーナメントを依頼され、「折遊かごしま」技術支援により提供し会場に彩を添えた。一般向けにもおりがみプロジェクトを展開し、JALの協力で実施の海外支社や日本人学校等からおりがみメッセージを集めたフォトコンテストの結果発表ポスター掲示と盛大にプロジェクトを締めくくった。</p>	
その他		
<p>プロジェクトホームページ5/21開設: www.cop10-origami.com、お知らせ、イベント情報をブログ形式で随時更新。写真投稿受付、COP10期間中は毎日ブログ更新を行い、会場の様子を全国、世界へ発信した。また、Twitter、facebookといったソーシャルメディアを活用し、日本だけでなく世界とのつながりを深めた。各種メディア(新聞、テレビ、ラジオ)からの取材対応。環境goolにて6月より連載スタートし、24回記事更新。</p> <p>実施時の様子、参加人数おりがみ数総計表、参加パートナー分野別グラフは別紙参照。</p> <p>最後に---</p> <p>地球生きもの委員会の皆様、そしておりがみプロジェクトに関わって下さった多くの皆様のおかげで、おりがみプロジェクトは大きな成果を上げることができ深く感謝しております。COP10、国際生物多様性年は終わりましたが、これで「おりがみプロジェクト」の生物多様性における役割は終わったわけではないと考えています。まだ生物多様性保全の為にできることがあると確信し、ご報告を期にプロジェクトを次の行動へと繋げ、国連生物多様性の10年の始動にむけて、今後の展開を検討しております。</p>		

実施時の様子



COP10交流フェアIUCN展示ブースにて、連日、大人気



COP10交流フェアIUCN展示ブースにて一般の人々が貼りつけたおりがみウォール



COP10会議場にて、会議参加者もLet's Origami!



COP10会場にてIUCNブースでの展開を支えた通訳ボランティア



熱田公園交流フェアステージ発表の様子



会議場内CEPAフェアでのワークショップ

実施時の様子



東山公園にて、タイムカプセルに埋蔵式

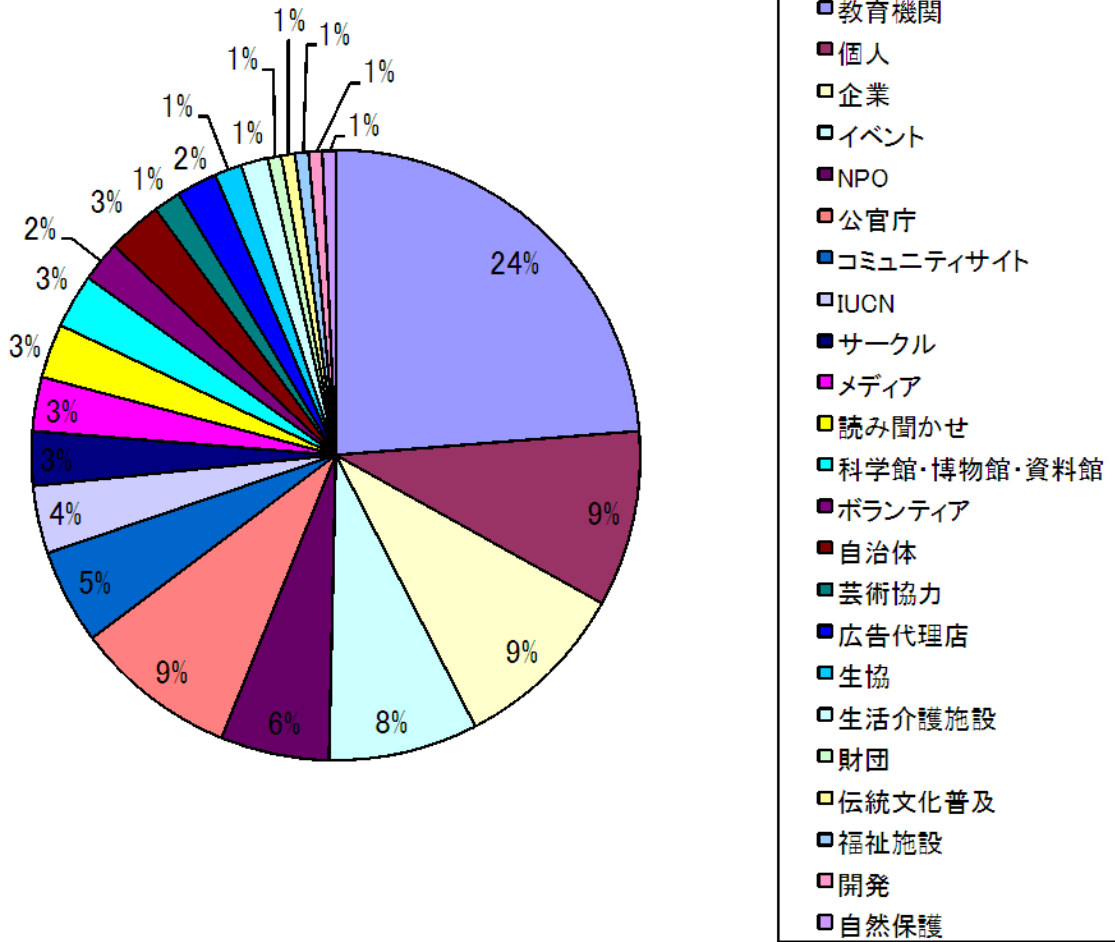


金沢 クロージングイベント ジョグラフィ会長と

参加人数とおりがみ数総計

IUCN-J主催	人数	おりがみ数
COP10 IUCN 関連	5,760	5,760
COP10支援実行委員会	5,000	5,000
タイムカプセル埋蔵式	50	50
金沢クリスマスツリーオーナメント	5	50
金沢クロージングイベント	50	50
IUCN-J主催外	人数	おりがみ数
91団体 個人10名	11,136	13,101
合計	22,001	23,971

パートナー団体の分野



【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	COP10スペシャル企画「動物園水族館30か所 いきものインターネット中継」
	実施主体	IUCN日本委員会 NHK 日本テレビ
	実施日時	2010年10月11日(月・祝) ※COP10オープニング
	実施場所	インターネット上の独自ドメイン Dobutsu.jp(仮)
	参加人数	アクセス総数20万件以上。
背景及び目的 (実施内容)	<p>10月11日(月・祝)のCOP10オープニングの日を「きょうは一日、いきものと私たちの未来を考える日」と位置づけ、インターネットを使って、オールジャパンで、生きものについて考えるインパクトのある企画を提案し、強く世界にアピールしたい。日本全国の動物園や水族館30か所と結び、絶滅の恐れのある生きものたちをインターネット中継で紹介。こうしたライブストリーミングは、世界的にも珍しく、大きな注目を集める試み。白鳥会場やオアシス会場などでも、パソコンからモニターに接続すれば、自由に見ることができる。COP10のオープニングを飾り、その開催を多くの人に知ってもらい、わくわくドキドキ楽しいイベントとする。</p>	
結果	<p>10月11日(月・祝)、COP10オープニングを記念して、北は北海道の旭山動物園から、南は沖縄美ら海水族館まで、全国32か所の動物園水族館から、インターネットのライブストリーミングを行い、たいへん大きな反響を得た。ジャイアントパンダやジンベエザメ、ホッキョクグマやワオキツネザル、シャチなど絶滅のおそれのある動物たちの生態や、ユーモラスな動きをじっくりと観察でき、アクセス総数は1日で20万件を超え、同時に行ったツイッターでの発信も好評で、たくさんの方々にご覧いただいた。COP10を機に、放送とも連動し、いきものたちについて家族みんなで楽しみながら考えてもらう世界的にも珍しい今回の取り組みは、大きな成果があった。</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	サマーコンファレンス2010 「中小零細企業復活フォーラム」 第一部 ～自然の恵みを活かした新しい企業経営とは～
	実施主体	公益社団法人 日本青年会議所
	実施日時	2010年7月24日(土) 15:30～17:30
	実施場所	パシフィコ横浜 会議センター 1F メインホール 横浜市西区みなとみらい1-1-1
	参加人数	946名
背景及び目的 (実施内容)	<p>生物多様性をビジネス・会社経営面のスタンスから考察する上で重要な事は、一部の業種だけに関わらず、企業が生物多様性との関わりを深めていく必要があるのは、生物多様性の低下が大きなビジネスリスクとなりえることである。逆に、うまく対応した場合には、生物多様性を新たなビジネスチャンスにすることもでき、まさにこれからもビジネスを継続させるためには、生物多様性との関係性を明確に把握し、営業活動を通じて生物多様性と関わりを強化することにより、持続可能な社会の構築に貢献する、社会から信頼される企業としての中小零細企業像が必要である。その為には、知る機会、学ぶ機会を提供し、さらに新しいこれからの時代の経営戦略へつなげ、企業復活への活路を導きだすことを目的とする。</p>	
結果	<p>今まさに「生物多様性」というキーワードが、企業に必要な新しい経営の視点、経営資源として注目されていることをフォーラムから学びとり、企業経営における「生物多様性」への取り組み、考え方が今後の経営、地域を活性化させる要素となりえることを知る機会となった。 企業が生物多様性に取り組む意義と意味を中小企業の経営者に向けて発信が出来た。</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	平成21年度 野生動物写真コンテスト～自然界に生きる野生動物たち～
	実施主体	財団法人自然公園財団
	実施日時	(募集期間)平成21年6月1日～平成22年1月10日
	実施場所	全国
	参加人数	応募総数 1446点、応募者数 455人
背景及び目的 (実施内容)	私たちの国土は南北に長い列島の特徴的な自然にいだかれている。繊細微妙な季節の移ろいのなかで多くの命を育み、豊かな生物多様性を支えている。私たちのごく身近な里山や海辺も生きものの気配に満ち溢れている。野生動物写真コンテストは、このような自然の中の生きものたちの命と営みを写真によって記録していき、このように願いを持って実施するもの。	
結果	北海道から九州・沖縄までの里地里山や海辺から国立公園をはじめとする自然公園及び、その付近の豊かな自然の中に生きる野生動物たち、哺乳類、鳥類、魚類、爬虫類、両生類、昆虫等、多数の応募があり、作品内容也多岐にわたった。小・中学生～80歳台まで幅広い年齢層から応募があった。厳正な審査により最優秀賞・環境大臣賞以下32点の入賞作品を決定。入賞作品をビジターセンター等で展示する全国巡回展を平成22年3月以降、順次開催中。また、入賞作品集パンフレットを15,000部作成し配布中である。	

プロジェクトの様子(写真等)



国際生物多様性年ロゴマークを使用した展示パネルと、新宿御苑インフォメーションセンターでの展示会(H22.6/8～6/20)



各地で展示会を開催。写真左:世界銀行情報センター(H22.3/15～3/26東京日比谷・富国生命ビル1階)
写真中央:支笏湖ビジターセンター(H22.4/1～4/18)、写真右:洞爺湖ビジターセンター(H22.5/22～6/1)

その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	平成22年度 野生動物写真コンテスト～自然界に生きる野生動物たち～
	実施主体	財団法人自然公園財団
	実施日時	(募集期間)平成22年7月1日～平成23年1月10日
	実施場所	全国
	参加人数	応募者数 529人 (応募点数 1,694点)

背景及び目的 (実施内容)	人の暮らしに深く関わってきた里地里山や海辺から国立公園などに代表される豊かな自然の中で生きる野生動物の姿を写真によって記録していこうという願いを持って実施する。併せて、国際生物多様性年、COP10開催を広報する。
--------------------------	--

結果	第3回目の開催。今年度も環境省ほかの後援・協賛を得て、上記期間 作品募集した。前年度の応募者数、応募点数(455人、1446点)を大きく上回る参加応募があった。60歳台を中心に、最年少6歳～最高齢86歳の応募があり、中学生以下の「子ども部門」への応募は24名、48点であった。また、平成20年度、21年度コンテスト入賞作品については新宿御苑、全国のビジターセンター、当財団管理のパークサービスセンター、アウトドアショップのサロンスペース等において巡回展示会を継続して実施し、日本の豊かな自然と生物多様性への関心を高めることにつながっている。本コンテストの審査会は2月8日に実施し、最優秀賞・環境大臣賞以下34点の入賞作品を決定する予定。巡回展示会も全国で開催予定である。
-----------	---

プロジェクトの様子(写真等)

H23.1.25実施、本コンテスト一次審査の様子と、新宿御苑アートギャラリーでの展示会。



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	国際生物多様性年ブックカバー配布プロジェクト
	実施主体	国際生物多様性年ブックカバー配布実行委員会 (財)自然公園財団 (財)国立公園協会 (財)休暇村協会 (財)自然環境研究センター 東京環境工科専門学校 NPO法人日本国際湿地保全連合
	実施日時	平成22年9月～10月
	実施場所	ジュンク堂書店(ロフト名古屋店、名古屋店、池袋本店、日比谷プレスセンター店)計4店舗
	参加人数	10万人
背景及び目的 (実施内容)	<p>多くの方々が身近なこととして「いのちのつながり」～生物多様性～について考える契機を作り、「国際生物多様性年」の広報に寄与するため。</p> <p>平成22年1月～4月にかけて、ジュンク堂書店のレジにて書籍に取り付ける方法で文庫本サイズブックカバー(全6種類)の配布を実施し、好評を得たことから、今回は、サイズを拡大して新書本版のブックカバーを同様の方法で10万枚配布した。</p>	
結果	<p>各人の手元で長時間目に触れる「ブックカバー」に「生物多様性」の解説文及び「国際生物多様性年ロゴマーク」を掲載したことにより、「国際生物多様性年」の広報に大きく貢献できた。動物写真家の大家、田中光常氏撮影による動物の親子の写真は、「美しい」「微笑ましい」との評価をいただき、多くの方々には喜ばれた。</p> <p>配布数:10万枚(全6種類) 配布内容:新書版サイズブックカバー(全6種類)</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※現在進行形のプロジェクト

概要	名称	第1回 いきものにぎわい企業活動コンテスト —企業の生物多様性保全等実践活動顕彰—
	実施主体	いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会 経団連自然保護協議会 (社)国土緑化推進機構 (社)日本アロマ環境協会 (財)水と緑の惑星保全機構
	実施日時	応募期間:平成21年11月27日～平成22年3月1日 表彰式:平成22年6月19日(土)13:00～15:30 実施期間:平成21年11月27日～平成23年3月31日
	実施場所	表彰式:港区立エコプラザ 広報活動:COP10会場他
	参加人数	

背景及び目的 (実施内容)
 「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」を契機に、日本の企業の里山保全・再生といった豊かな生物多様性の保全や持続的な利用等の実践的な活動を国内外に発信するとともに、特に優れた企業の実践活動を挙げて顕彰するため、新たな表彰制度を創設し、第1回の募集・表彰を行う。

中間報告
 応募期間に、自薦、他薦を合わせて、154件の応募があり、一次審査の結果、90件が二次審査対象となりました。
 さらに、この90件の中から、二次審査の結果、特に優秀であると認められた、環境大臣賞、農林水産大臣賞をはじめとした、12件の活動が受賞しました。
 受賞活動について紹介するパンフレットを作成し、COP10、クロージングイベントの場でも日本の企業活動事例紹介として配布しました。
 今後さらに、受賞活動等をホームページ等を通じて広報するとともに、第2回の募集・表彰を予定しています。

プロジェクトの様子(写真等)



環境大臣賞 北州市アニマルパスウェイ・プロジェクト
 有限会社エンウィット、清水建設株式会社、
 大成建設株式会社、東日本電信電話株式会社



農林水産大臣賞 北海道ふゆみずたんぼプロジェクト
 株式会社アレフ

その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	COP10に向けた市町村リレー植樹
	実施主体	愛知県内市町村(東栄町、東郷町、飛鳥村、豊根村、設楽町、愛西市、刈谷市、尾張旭市、弥富市、岡崎市、蟹江町、知多市、大府市)
	実施日時	3月5日(金)～10月11日(月・祝)
	実施場所	愛知県内各地
	参加人数	約4,000名

背景及び目的(実施内容)
 愛知県では、COP10開催を契機として、多様な主体が植樹等を通して生物多様性への理解を深め、さらなる環境保全活動への取組の促進につなげることを目的とした、「いのちを支えるもりづくり事業」を展開している。この事業の一環として、県内各市町村主催による住民参加の植樹会を実施し、生物多様性への理解を深めてもらう。

結果	県内13市町村にて 約4,080名参加のもと 約12,300本を植樹した。													
									日程	場所	主体	植樹名	総量	参加者
								1	3月5日	東栄町立東部小	東栄町	東栄町 東部小学校閉校記念「ドングリの森」植樹式	クスギ等150本	約120名
								2	3月7日	百年森公園	東郷町	東郷町 愛知池 県民参加 森と緑づくり 植樹祭	コナラ等約1,500本	約600名
								3	5月22日	飛鳥学園	飛鳥村	飛鳥村 飛鳥学園親子による記念植樹	アジサイ約90本	約90名
								4	5月25日	茶白山高原	豊根村	豊根村 茶白山高原植樹	コナラ等150本	約90名
								5	5月30日	大入川河川沿面等	設楽町	設楽町 津具地区植樹	桜310本	約300名
								6	9月23日	親水公園	愛西市	愛西市 市制50周年記念植樹祭	レッドロビン等267本	約200名
								7	9月25日	百年森公園	東郷町	東郷町 愛知池 県民参加 森と緑づくり 植樹祭	タブノキ等約1,000本	約400名
								8	9月25日	閑原公園	刈谷市	刈谷市 市民植樹祭	コナラ等306本	約270名
								9	9月26日	龍蔵池	尾張旭市	尾張旭市 市制40周年記念植樹祭	ハマモモ600本	約500名
								10	9月26日	尻堂公園(2箇所)等	弥富市	弥富市 森と緑づくり環境活動	キンモクセイ等126本	約150名
								11	9月30日	こども自然遊びの森	岡崎市	岡崎市 植樹祭 こども自然遊びの森 オープニングセレモニー	ミツハツツジ等621本	約240名
								12	10月3日	名古屋港南5区	知多市	知多市制40周年記念 名古屋港南5区植樹	ヤマモモ等4,000本	約500名
								13	10月3日	駅北區面整理部分	蟹江町	蟹江町 駅北グリーンロード記念植樹	キンモクセイ等315本	約220名
14	10月11日	ニッ池	大府市	大府市制40周年記念 市民植樹祭	クスギ等3,000本	約400名								
	合計	13箇所※	13市町村		約12,300本	約4,080名								

※百年森公園で2回実施

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	あいち いきものキャラバン隊
	実施主体	愛知県
	実施日時	5月15日(土)～10月10日(日)のうち86日間
	実施場所	愛知県内全市町村及び東京都、大阪府、中部8県(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、三重県、滋賀県)の各種イベント会場等
	参加人数	約55,000名
背景及び目的 (実施内容)	COP10の開催機運の盛り上げ、生物多様性と私たちの暮らしとの関わりなどを親しみやすく普及啓発する。	
結果	<p>多くの地域住民の方々が訪れる公共施設や商業施設、地域で行われる祭り・イベントにおいて、参加型ゲームや環境に配慮したグッズを活用した普及啓発活動を実施した。</p> <p>184会場で 225回の活動を実施 (県内)57市町村、171会場 208回 (県外)10都府県、13会場 17回</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※現在進行形のプロジェクト

概要	名称	小さなもりを守り隊		
	実施主体	愛知県		
	実施日時	5月21日(金)～		
	実施場所	愛知県内各地の幼稚園・保育園、及び愛・地球博記念公園(国際児童年記念館)		
	参加人数			
背景及び目的 (実施内容)	<p>愛知県では、COP10開催を契機として、多様な主体が植樹等を通して生物多様性への理解を深め、さらなる環境保全活動への取組の促進につなげることを目的とした、「いのちを支えるもりづくり事業」を展開している。この事業の一環として、植樹等の環境活動に積極的に取り組んでいる幼稚園や保育園に「小さなもりを守り隊」に参加していただき、活動を通じて幼児に生物多様性への理解を深めてもらう。</p> <p>植樹等の環境活動に積極的に取り組んでいる県内幼稚園・保育園が「小さなもりを守り隊」を結成し、幼児の生物多様性への理解を深める活動を実施、その成果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結成式(5月21日) <li style="padding-left: 20px;">記念植樹、アトラクション ・活動発表会(10月上旬) 			
中間報告	<ul style="list-style-type: none"> ●結成式 ●活動発表会 ●ホームページ(いのちを支えるもりづくり)上での活動報告 	<ul style="list-style-type: none"> 5月21日(金) 結成宣言、記念植樹 10月5日(火)～6日(水) 活動報告 	<ul style="list-style-type: none"> 34園 347名参加 6園 687名参加 	
プロジェクトの様子(写真等)				
				
結成式		記念植樹		活動発表
その他				

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	生物多様性親子セミナー
	実施主体	愛知県
	実施日時	6月6日(日)～10月3日(日)
	実施場所	愛知県内各地
	参加人数	2,075名

背景及び目的 (実施内容)	COP10を契機として、6県民事務所等が中心となり、その地域ならではの「素材」を活用し、生物多様性への子供たちの意識を高め、COP10への関心や理解を高める。
------------------	---

結果	<p>尾張県民事務所 2回 100名参加 「川の上流と下流の生き物を調べてみよう！」(バスツアー)</p> <p>海部県民センター 4回 149名参加 「生物多様性ってな～に？」親子で発見「いろんな野鳥」(ネイチャーゲーム, 工作教室)</p> <p>知多県民センター 3回 224名参加 「水辺の生きものたんけん隊」親子で観察、知多の生きもの</p> <p>西三河県民事務所 3回 109名参加 「なるほど生物多様性」～親子で発見、西三河の生物多様性～(バスツアー)</p> <p>新城設楽山村振興事務所 31回 1,458名参加 「もっと聞かせて!! 生物多様性」幼児・児童向け紙芝居、絵本読み聞かせキャラバン</p> <p>東三河県民事務所 2回 35名参加 「触れてみよう、生物多様性」親子で体験「東三河の森・川・海の自然」(バスツアー)</p> <p>合計45回 2,075名参加</p>
----	---

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	地球のいのち・交流ステーション
	実施主体	愛知県
	実施日時	10月9日(土)～29日(金)の土日を中心に実施
	実施場所	愛・地球博記念公園(地球市民交流センター)及び周辺県有施設
	参加人数	約65,000名
背景及び目的 (実施内容)	COP10を契機として、県民、市町村等が生物多様性への理解を深め、生物多様性に配慮した地域づくりを推進していく。	
結果	<p>愛知県内全市町村の参加により、生物多様性をテーマとして、多くの県民が楽しく参加・体験できるイベントを開催した。</p> <p>○ブース出展(6日間 延154ブース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然保護や環境学習等の取組紹介 ・地域の特産品等の販売・PR ・自然の素材を使用した工作体験 など <p>○ステージ発表(6日間 延26団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関する活動を題材にした演劇やミュージカル ・地域に続く生物多様性に関する伝統芸能 など 	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	COP10「あいちのいのちいただき隊」生物多様性クッキング
	実施主体	愛知県
	実施日時	10月17日(日)、18日(月)、19日(火)、27日(水)、28日(木)
	実施場所	COP10会議会場隣接の白鳥地区 (フェスティバルゾーン(熱田神宮公園)愛知県ブース内)
	参加人数	約700名

背景及び目的 (実施内容)

愛知県では、平成20、21年度、市町村、NPO等の協力により、多くの県民の参加のもと、生物多様性キャラバンセミナーを県内34ヶ所で開催した。
このキャラバンセミナーの集大成となるシンポジウムを本年6月27日(日)に開催し、「あいちの伝統野菜」を生かした生物多様性クッキングを実演した。
いのちの恵みをいただいていることを参加者が実感し、伝統野菜等を生かした料理の試食を通して、生物多様性とのつながりについて理解を深める。

結果

24名のメンバーを5グループに分け、1日ずつ担当して発表を実施。
・生物多様性クッキングのデモンストレーションを時間内に4～5回繰り返して行い、各回が終わるごとに試食を配布。
・言語は日本語・英語に対応した形で実施。

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	国際生物多様性年クロージングイベント
	実施主体	環境省・国際生物多様性年クロージングイベント開催実行委員会 (石川県、金沢市、中部経済団体、農林水産省、環境省など)
	実施日時	平成22年12月17日(土)～平成22年12月18日(日)
	実施場所	石川県金沢市ほか
	参加人数	約400人
背景及び目的 (実施内容)	2010年(平成22年)は国連の定めた国際生物多様性年であり、また、日本で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催される重要な年である。そのため、国際年の国際的なクロージングイベントを、COP10議長国である日本で開催しCOP10での成果等を世界にアピールするものである。	
結果	<p>12月18日(土)、19日(日)に石川県金沢市の石川県立音楽堂をメイン会場に開催。</p> <p>18日の式典には29の国と地域の代表や国連機関、国内外関連機関・団体の関係者ら約400人が出席。松本環境大臣から開催の挨拶を、近藤副大臣からはCOP10について結果報告を行った。また、生物多様性条約のアーメド・ジョグラフィ事務局長からはパン・ギムン国連事務総長のメッセージ代読のほか、国際生物多様性年を総括いただいた。その他、2011年の国際森林年(IYF)に合わせ、IYBからIYFへの橋渡し式典(ブリッジング・セレモニー)も開催した。式典終了後には歓迎レセプションが開催され、参加者は石川の里山里海の食や文化を堪能しながら交流の輪を広げた。</p> <p>19日の記念シンポジウムでは谷本石川県知事が生物多様性の保全に向けた石川県の取組を紹介。武内国連大学副学長がIYBを振り返った後、パネルディスカッションが行われ、最後にCOP10名誉大使のMISIAさんがメッセージソングを披露した。シンポジウム終了後、金沢市内を巡るエクスカーションが実施され、6つのコースに分かれ探訪した。翌20日には希望者を対象とした能登オブショナルツアーも実施された。</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※現在進行形のプロジェクト

概要	名称	白山国立公園生物多様性ミニ展示&クイズ企画 「白山のいのち、つないでいこう!」「白山のいのち、さがしてみよう!」
	実施主体	石川県(白山自然保護センター)、環境省白山自然保護官事務所
	実施日時	平成22年7月9日(火)~
	実施場所	石川県庁展望ロビー(石川県金沢市)、市ノ瀬ビジターセンター、中宮展示館、ブナオ山観察舎(石川県白山市)
	参加人数	

背景及び目的 (実施内容)	<p>2010年は国連が定めた国際生物多様性年であるとともに、10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会合(COP10)が開催されることを背景として、白山の豊かな自然環境や多種多様な動植物、白山で行われている調査や環境保全の取組を紹介することで、生物多様性についての理解を深めてもらうよう「白山の生物多様性」に注目した企画展を開催する。また、地域の子どもたちに白山国立公園の生物多様性について関心を持っていただくことを目的にクイズ企画を実施する。</p> <p>石川県庁展望ロビーにおいて、白山の自然について紹介したパネルや剥製、模型などを展示する。また、白山国立公園の自然を紹介する施設である中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンター、ブナオ山観察舎を拠点として、生物多様性の理解を促す内容のクイズ企画を実施し、全問正解者には環境省が作成したCOP10関連グッズなどを景品としてプレゼントする。</p>
------------------	--

中間報告	<p>石川県庁展望ロビーでの企画展は平成22年7月9日(金)~7月22日(木)に実施した。来場者数は不明であるが、平日の昼及び休日には多くの方が展望ロビーを訪れており、特に剥製や模型等は来場者の目を引き付けていた。また、クイズ企画は、中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンターでは終了したが、ブナオ山観察舎では現在も引き続き実施しており、小学生を中心に多くの参加があり、生物多様性に関心を持ってもらっている。</p>
------	--

プロジェクトの様子(写真等)



石川県庁展望ロビーでの企画展の様子



市ノ瀬ビジターセンターでのミニ展示を見る来館者

その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	いしかわの里山里海展
	実施主体	(社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議、石川県、環境省中部地方環境事務所
	実施日時	平成22年8月21日、22日
	実施場所	石川県産業展示館4号館
	参加人数	同時開催の「いしかわ環境フェア」と合わせ、約22,000人

背景及び目的 (実施内容)

生物多様性がもたらす様々な恩恵は、我々の暮らしにとって欠かせないものであり、県民・企業・NPO団体などの多様な主体が参画してその保全に取り組むことが重要である。しかし、生物多様性についての認識が十分に浸透していないことから、身近な自然である「里山里海」を通じて生物多様性の理解促進を図るもの。里山里海の様々ないのちのつながりや、そこから日々得ている多くの恵みを、楽しい「体験」やおいしい「食」を通して、石川の豊かな里山里海を見つめ、生物多様性とは何かを学ぶ。

結果

里山里海の基盤である森林、田畑、ため池や、その基盤の上に成り立つ里山里海の生きもの、そしてそれらをもとにした恵み・文化について、市町、NPO、大学、県内環境学習施設等が参加し、それぞれが「体験」を通じた展示を実施した。国や愛知県からの出展もあり、「生物多様性」や「COP10」、「クロージングイベント」などについて、来場者にわかりやすく知っていただく機会を提供できた。また、企業からも多くの出展があり、里山里海や生物多様性に関する最新の技術などが展示された。

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	いしかわの里山里海 生物多様性シンポジウム
	実施主体	石川県、石川県土地改良事業団連合会
	実施日時	40452
	実施場所	県立音楽堂 邦楽ホール
	参加人数	約600人

**背景及び目的
(実施内容)**

国際生物多様性年クロージングイベントに向けた県民意識の醸成を図るとともに、里山・里海の利用保全をとおして、人間は生きものをつながりの中で生活していることに気付き、どのような行動が求められるかを考える機会とすることを目的としたシンポジウムを開催する。

結果

- 基調講演 ～生きものはつながりの中に
JT生命誌研究館館長 中村桂子
生物多様性についてわかりやすく解説する
- トークセッション ～私が感じる生きものとのつながり
榊林農産代表 林浩陽、地球生きもの応援団 大桃美代子、
愛媛大学準教授 日鷹 一雅
- パネルディスカッション
～水と土が育む生きものつながり 豊かな里山里海を未来へ
パネリスト 東京大学大学院教授 鷺谷いづみ
金沢大学学長補佐 中村浩二
石川県立大学教授 高橋強
NPO法人おらっちゃん 里山里海理事長 北風八絃
リコージャパン石川支社長室副室長 北村幸一郎
コーディネーター 東京農業大学名誉教授 進士 五十八
- 報告 ～石川県生物多様性戦略ビジョンについて
石川県生物多様性戦略ビジョン策定委員会 委員長 丸山 利輔

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	グリーンウェイブ2010
	実施主体	主催:環境省、国土交通省、林野庁
	実施日時	平成22年3月1日(月)～平成22年5月31日(月)
	実施場所	全国各地
	参加人数	※結果を参照

**背景及び目的
(実施内容)**

・生物多様性条約事務局が、「国際生物多様性の日」の現地時間の午前10時に、世界各地の青少年の手で、それぞれの学校の敷地などで植樹を行おう、と呼びかけているもの。この行動が地球上を東から西へ波のように広がっていく様子を「緑の波(グリーンウェイブ)」と表現している。
 ・環境省、国土交通省及び林野庁は、生物多様性に関する認識を促し、生物多様性の保全と持続可能な利用を促進するとともに、国際生物多様性年や生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の日本開催に対する機運を高めることなどをねらいとして、本年3月1日(月)より5月31日(月)までの期間、「国際生物多様性の日(5月22日)」を中心として、青少年などが全国各地で植樹等を行う「グリーンウェイブ2010」の実施を呼びかけた。

結果

植樹行事を行った・植樹行事に参加した団体:1,587団体
 その他の協力団体:41団体
 植樹された本数:約22万4千本
 植樹に参加した人数:約10万8千人
 (注:結果は集計中であり、変わる可能性があります。)

プロジェクトの様子(写真等)



東京・海の森



北海道・弟子屈町立川湯小学校



石川県・金沢大学

その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	国際生物多様性年記念イベント
	実施主体	環境省
	実施日時	40297
	実施場所	新宿御苑(東京都新宿区)
	参加人数	—
背景及び目的 (実施内容)	2010新宿御苑みどりフェスタの開催に合わせ、自然環境功労者大臣表彰式及び地球いきもの応援団等によるMY行動宣言式を行い、国際生物多様性年を盛り上げるもの。	
結果	<p>「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰式表彰者:32人 MY行動宣言:鳩山元首相、小沢環境大臣、江戸家猫八、榊原郁恵、田中律子、松本志のぶ、ルー大柴。(以上、敬称略) 報道参加社:TV8社、新聞9社、通信2社</p>	

プロジェクトの様子(写真等)



その他

鳩山元首相、小沢環境大臣、江戸家猫八、榊原郁恵、田中律子、松本志のぶ、ルー大柴によるみどりフェスタ巡視を実施。また、ステージにてさかなクンとトークショーを行う。

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	「生物多様性みどり賞 (The MIDORI Prize for Biodiversity)」
	実施主体	公益財団法人 イオン環境財団、生物多様性みどり賞実行委員会 (環境省など)
	実施日時	平成22年 4月 ~ 10月
	実施場所	授賞式 記念シンポジウム
	参加人数	

背景及び目的 (実施内容)

2010年は国際生物多様性年であり、10月には愛知県名古屋市において生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されました。また、本年がイオン環境財団の創立20周年にあたることから、この重要な年に、生物多様性に関わる様々な分野で活躍している人々をサポートする国際賞「生物多様性みどり賞 (The MIDORI Prize for Biodiversity)」を創設しました。

結果

H22.4月～7月中旬にかけて推薦制による公募を実施、35ヶ国から150件をこえる受賞候補者の推薦がありました。選考では、新たな試みとして2009年生物多様性日本アワードの受賞者による市民目線の評価を審査段階に組み入れ、最終的に審査委員会において、3名の受賞者が決定されました。

また、本年を記念し、審査委員会の提起により「国際生物多様性年特別賞」が設けられ、ドイツ連邦共和国のメルケル首相が受賞しました。

- 生物多様性みどり賞受賞者
 ジャン・ルミール氏 (カナダ: 生物学者、探検家、映画製作者)
 グレッチェン・C・デイリー博士 (米国: スタンフォード大学 教授)
 エミル・サリム博士 (インドネシア: インドネシア大統領諮問会議 議長、
 元インドネシア人口・環境大臣)
- 国際生物多様性年特別賞
 アンゲラ・メルケル氏 (ドイツ: ドイツ連邦共和国 首相)

プロジェクトの様子(写真等)



その他

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※現在進行形のプロジェクト

概要	名称	生物多様性国民運動関連事業「全国自然いきものめぐりスタンプラリー」
	実施主体	環境省・全国自然いきものめぐりスタンプラリー実行委員会
	実施日時	平成22年7月21日(予定)～平成25年3月31日
	実施場所	国立公園内のビジターセンター等の施設 84箇所 ①環境省が整備したビジターセンター・野生生物保護センター・世界遺産センター・水鳥・湿地センター等 ②財団法人自然公園財団が整備したビジターセンター等 ③上記の施設がない国立公園については、都道府県のビジターセンター等にも協力を依頼する
	参加人数	
背景及び目的 (実施内容)	<p>世界的な都市化の進展により子ども達が自然とふれあう機会が減少しているなか、生物多様性条約事務局は若者の自然へのふれあいを強く推奨している。</p> <p>本年は、国連の定めた国際生物多様性年であり、また、日本では10月に生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催される。</p> <p>このため、全国の国立公園内に設置されたビジターセンター等の協力を得てスタンプラリーを実施し、国民が各地の国立公園を訪問し、自然とふれあうことで、自然環境や生物多様性に関して知識や理解を深め、具体的な保全活動につながる契機を得ること、国際生物多様性年とCOP10開催を国民運動として盛り上げることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TBS及びGreenTV保有の既存映像を中心に映像を作成し、平成22年5月22日(国際生物多様性の日)に、BS-TBSにて1時間枠で放送。 ・教育用映像教材及びCOP10普及啓発用として、上記映像を再編集作業中。 ・今後はDVD化し、学校配付や普及イベントでの上映を行うほか、デジタルコンテンツ化してインターネットで配信する予定。 	
中間報告	<p>平成22年12月末時点までに、約6万人がビジターセンター等を訪れ、施設の展示を鑑賞したり、自然体験プログラムに参加した。</p> <p>平成23年度は、本事業を通じて、より国立公園等の地域における自然とのふれあいを浸透させるために、地域の団体や企業と連携したイベントの実施、対象施設の追加、生物多様性を学ぶ自然体験プログラム集の作成等を検討しているところ。</p>	
プロジェクトの様子(写真等)		
その他		

【地球生きものプロジェクト】報告シート ※終了報告用

概要	名称	「国際生物多様性年自然とのふれあい展示」プロジェクト
	実施主体	国立公園サポーターズ ・(財)自然公園財団 ・(財)国立公園協会 ・(財)休暇村協会 ・(財)日本鳥類保護連盟 ・(財)自然環境研究センター ・(財)自然共生技術協会 ・NPO法人 日本国際湿地保全連合 ・学校法人 東京環境工科学園 ・財団法人三菱UFJ環境財団 環境省
	実施日時	①子どもが描く生きものたち展:平成22年8月10日～9月5日 ②野生の生きものたち～そして人とのふれあい:平成22年10月26日～10月31日
	実施場所	新宿御苑インフォメーションセンター アートギャラリー
	参加人数	①3005名、②992名
背景及び目的 (実施内容)	生物多様性の普及啓発の促進とCOP10の認知度向上のため、新宿御苑アートギャラリーにおいて以下の展示会を開催した。 ①子どもが描く生きものたち展 生物多様性に関して子どもたちが制作した絵画、ポスター、イラスト等で、(財)国立公園協会主催の「自然観察路コンクール」、(財)日本鳥類保護連盟主催の「愛鳥週間用ポスター原画コンクール」、NPO法人日本国際湿地保全連盟主催の「人と湿地の生き物絵図」及び(財)三菱UFJ環境財団主催の「みどりの絵コンクール」において優秀作品に選定されたものを活用して8～9月にかけて絵画展を開催 ②野生の生きものたち～そして人とのふれあい 日本の野生生物の多様さや自然とのふれあいをテーマに、昨年度までに開催された(財)自然公園財団主催の「野生動物写真コンテスト」及び(財)休暇村協会主催の「ふれあい写真コンテスト」において、優秀作品に選定されたものを活用して、10月に写真展を開催	
結果	8～9月にかけて開催した「子どもが描く生きものたち展」では、子どもたちの目線から見た日本の生物多様性を表現した絵画、ポスター、イラスト計56点を展示し、期間中約3005名の入場があった。また、10月の「野生の生きものたち～そして人とのふれあい」写真展では、日本の野生生物の多様さや自然とのふれあいをテーマにした写真計44点を展示し、期間中約992名の入場があった。	
プロジェクトの様子(写真等)		
その他		